

令和4年 経済建設委員会行政視察報告

〔参加委員〕

委員長 大塚 雄一
副委員長 渡辺 康徳
委員 土屋 俊重、加藤夕紀子、土屋 啓子、篠原 勤、小林 松子、中條 壽一

1 視察日時 令和4年10月26日（水）～28日（金）

2 視察先及び視察事項

- ・鹿児島県鹿児島市 「ゼロカーボンに向けた取組及びかごしま環境未来館について」
- ・鹿児島県志布志市 「農業の担い手不足に対する取組及び新規就農者の育成について」
- ・鹿児島県日置市 「生ごみモニター回収処理事業について」

3 視察概要

（1）鹿児島県鹿児島市 「ゼロカーボンに向けた取組及びかごしま環境未来館について」

佐久市は令和元年に発生した台風19号により河川など甚大な被害を受けました。市としても「佐久市気候非常事態宣言」を採択し気候変動に対応したゼロカーボンへの取組を進めています。経済建設委員会としてもゼロカーボンへの取組の先進地域の視察を通して市として取組める事案を積極的に取り入れることなどを検討して参りました。鹿児島市の取り入れているさまざまな施策や「かごしま環境未来館」など市民への啓発活動などの積極的な取組などを視察することにより具体的な施策を実行できるとの意見のもと、鹿児島市への視察またかごしま環境未来館への視察を選定致しました。

ア 日時 令和4年10月26日（水）午後1時から午後3時

イ 対応者 鹿児島市環境局環境部課長、かごしま環境未来館事務局長

ウ 内容

鹿児島市が取り組んでいるゼロカーボンシティかごしまについて視察・研修を行いました。研究内容としては4項目にわたり行いました。

1項目目として、「鹿児島市の温暖化対策への取り組みについて」鹿児島市のCO₂の排出量は1日一人当たり17kgであり、これは中核市中17番目に少ない排出量です。具体的な取り組みとしては電気自動車・燃料電池自動車の普及促進を進めています。購入に当たっての補助制度として、一台あたり10万円の補助を実施。また公用車にも電気自動車と燃料電池自動車を使用。現在27台を導入し、市役所本庁や各支所に配置するなど取り組みを行っています。また中心市街地では、「コミュニティサイクルかごりん」として、駅周辺にサイクルポートを設置し、自転車プラス公共交通機関への転換を促進しています。事業開始は平成27年サイクルポートは、市内27か所、自転車数は21

5台、運用時間は24時間年中無休で運用をしています。その他市民・事業者に対して太陽光発電システムの設置補助制度や、市有施設への太陽光発電システムの導入などを実施しています。また企業や事業所などへの取り組みとして、環境管理事業所（グリーンオフィスかごしま）を実施。市が定めた環境管理指針に基づき適正に環境管理を実施している事業所を認定。環境管理とは日常の事業活動が環境にどのような負荷を与えているのかを認識し、目標を持って改善に取り組んでいくこととし、平成16年度の制度開始以降市内の821の事業所を認定する取り組みが進んでいます。

かごしま環境みらい館では、平成20年に開館。環境学習の拠点施設として環境に関するさまざまな展示を行っている他、イベントや講座を開催し、環境に対する啓発活動の拠点となっています。特に小学生など子供たちへの環境学習の一環として、環境に対する意識向上に役立っています。

2項目目として、ゼロカーボンシティ宣言以降の取り組みとして令和元年12月に、鹿児島市は、2050年までに市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする、「ゼロカーボンシティかごしま」を宣言。市民や事業者が一体となって取り組みを行ってきました。具体的な取り組みに当たり、CO₂減目標を大きく分けて短期・中期・長期として3つの区分で目標を設定。ロードマップを策定し各分野での詳細で具体的な取り組みを設定。さまざまな取り組みを行っております。

3項目目として、ゼロカーボンシティかごしまPR事業についてゼロカーボンシティかごしまを周知するため、ロゴマークやポスター・冊子・動画などを作成し、意識向上を進めています。

4項目目として、ゼロカーボンシティかごしまパートナーの取り組みとして、ゼロカーボンシティかごしまのPR動画放映やポスターの掲示等を企業を集い協力パートナーとして協賛していただく事業として、さまざまな分野の企業が協力パートナーとしてイベント等に、また市役所本当社のゼロカーボン電力化を令和2年4月より、市役所本庁で使用する電力を再生可能エネルギー由来のゼロカーボン電力に切り変えました。削減量としてはCO₂1380トン、実に770世帯分のCO₂削減の効果がありました。さまざまな取り組みにより着実にゼロカーボンへの効果へ繋がっています。

エ 考察

鹿児島市のさまざまな取り組みの中でも、佐久市ですでに取り組んでいる内容もある中、コミュニティサイクルかごりんなどのレンタルサイクル事業の実施も佐久市が今後取り組んでも良いかと思われる事例であると思います。駅周辺へのサイクルポートの設置などで、市内の高校生など通学へ利用するケースや出勤などで利用する方など、一定数はいるかと思われませんが、調査研究が必要であります。

また市役所本庁舎のゼロカーボン電力化なども大変に大きな取り組みではありますが、いずれは庁舎等や公共施設などはゼロカーボン化をして行かなければならない取り組みかと思われまます。また課題としてはゼロカーボンかごしまの認知度として、意識調査をしたところ、ゼロカーボンシティかごしまを知っていますか、の問いに「良く知っている」が1.8%、「ある程度知っている」が13.2%「聞いたことはあるが内容は良く知らない」が28.5%等の調査結果となり、取り組みに対して市民の意識としてはなかなか認知が広がっていない現状を見ると、普及啓発が難しい現状であることに取り組みの難しさを感じます。しかしながら、市民一人ひとりの意識の向上がゼロカーボンへの第一歩となりますので、当委員会としては、今後においても啓発活動も含めたゼロカーボンに対する市の取組について、進捗状況の確認し、必要に応じて提言をするなど議会としてのチェック機能を果

たしてまいります。



リニューアルされたかごしま環境未来館。市民が環境について学ぶことのできる施設となっている。

(2) 鹿児島県志布志市「農業の担い手不足に対する取組及び新規就農者の育成について」

近年農業就農者減少は大きな課題であります。農業従事者の高齢化に加えて、米価の下落などから農業経営をしてもなかなか利益に繋がらず、経営が困難となり農業から手を引いてしまうケースが顕著であります。佐久市も平成27年から令和2年のデータによると、農業経営体は約3600から2700件への減少となっており、減少数は878件。減少率は実に24.5%となっております。農家の次の世代への継承がなかなか進まず、今の状況が続くと佐久市の農業形態の衰退が懸念されます。そのような点から鹿児島県志布志市が取り組んでいる、農業の担い手不足に対する育成についての視察・研修を選定しました。

ア 日時 令和4年10月27日（木）午後1時30分から3時30分

イ 対応者 志布志市農政畜産課課長補佐

ウ 内容

志布志市において地域農業を取り巻く環境は高齢化や兼業化の進行による担い手不足・荒廃農地の増加・農業構造の弱体化など、いくつもの大きな課題としてありました。深刻な産地衰退の現状の打開策として、平成19年4月に（財）志布志市農業公社を設立しました。

公社の主要事業として、1農作業の受託および委託に関する事業、2農業の後継者育成に関する事業、3農地利用集積円滑化に関する事業の3つを事業化し進めています。事業内容の一つとして、新規農業者の研修制度を開始。県内外からの新規就農者を集い研修期間を設けて新規の就農者育成を進めています。研修内容と受け入れ条件については、研修品目として施設ピーマンを選定。選定理由として冬・春ピーマンの生産状況として鹿児島市が全国で3位の栽培面積の91ヘクタール、出荷量として11000トンの実績があり、なかでも志布志市は県内でも1位の32ヘクタール、3600トンのお荷量を誇っています。また、新規就農者が始めやすい作物である点もピーマンが選定された理由であります。研修期間は2年間。

研修方法は公社の研修ハウスで実地栽培、研修条件（人選）については農業に対する固い意志と意欲のある農業後継者や新規就農希望者で志布志市に移住し就農できる者として人選しています。栽培面積として一人当たり10アール、夫婦の場合は20アール、募集人員としては3組6名の原則夫婦、自己資金は500万円以上。健康状態として健康診断書の確認必須などが条件となっています。研修手当として1年目夫婦で20万円/月、単身の場合15万円/月。2年目は独立経営方式のため、支給はなし。住宅助成として家賃10000円を超える場合、10000円を限度して支給されます。以上のような研修内容と条件などをクリアされた方が研修に参加することとなります。公社としても面談や農病体験を通してしっかりと研修をできる方・意思と条件面などをしっかりと精査し人選を行っています。

1年目の研修としては、ファームサラリー方式で技術指導や農業基礎講座・ピーマン基礎講座などを受講し、さまざまな指導・支援のもと栽培を行います。2年目の研修としては1年目の研修を活かし独立経営の為の計画立てや、資金計画の策定支援などのバックアップを行っています。今後の課題としては、燃料・資材等経費の価格高騰により農業経営が不安定な点。就農用地の確保（取水・流水排水）などの条件の合う農地不足、また新たな品目による研修制度の確立などの課題もあり、長期に渡るイメージを描くことが難しいとの課題があります。

エ 考察

新規就農研修生が志布志市を選んだ理由として、1 田舎過ぎない（山と海があり、サーフィン等も楽しめる地域であること）、2 総合病院・大型スーパー・進学校が2校あること、3 受け入れ体制➡出口が見えていること、などが上げられています。

1と2は佐久市も条件的には同等である点でも、新規就農者の受け入れ条件としてはクリアされていると思われます。3については佐久市に合った品目を選定することにより、より受け入れ体制をとることも可能になるのではないかと思います。

また志布志市において新規就農者が地域に及ぼした影響として、1 耕作放棄地の未然防止、2 地域の園児や児童に対する（食農体験）、3 地域活動への積極的な参画➡地域活性化、4 自治会・公民館・消防団や青年団活動の活性化などの効果があることなど、地域にとってもプラスの面が多方面にわたり効果として現れていることがあげられます。新規就農者が農業従事を通して地域や人などにプラスの効果を生んでいることから、移住政策における新たな起点となればと思います。



志布志役所での研修の様子



ピーマンのハウス栽培の様子

(3) 鹿児島県日置市「生ごみモニター回収処理事業について」

佐久市としてもごみ処理事業はさまざまな課題を抱えております。新クリーンセンター開設に当たり、昨年よりプラスチックごみを可燃ごみとして処理することとなり、うな沢第2最終処分場の数年間の延命措置がとられるなど、行政としてもさまざまな措置を講じるなどしております。家庭から排出される生ごみに関しても可燃ごみとして焼却されていますが、排出削減のために市としても各家庭にコンポスト購入に対して助成制度などを講じておりますが、劇的な生ごみ排出の軽減にはつながっておりません。日置市で行っている生ごみモニター回収処理事業を視察研修することにより、これからの佐久市のゴミ処理事業への参考となるよう選定致しました。

ア 日時 令和4年10月28日(金) 午前10時から午前11時30分

イ 対応者 市民生活課生活環境係係長、市民生活課課長補佐

ウ 内容

日置市では平成26年7月からスタートした地域活性化奨励金制度として、通称「CO₂CO₂ (こつこつ) マイレージ」としてスタートしました。内容としては、生ごみをリサイクルすることでごみの焼却量を減らし、地域雇用も生み、更には二酸化炭素も減らす、環境に優しい取り組みとなっています。具体的には、生ごみ回収モニター事業により回収した生ごみの量1キロに対して10円を「地域活性化奨励金」として自治会に支払っています。この取り組みにより地域住民が参加型でなおかつ地域活動への取り組みにも役立っています。生ごみ回収の方法としては、各家庭に家庭用バケツと水切り用の三角コーナーを配布。各家庭から排出される生ごみをゴミステーションに設置された専用の回収用のタルに直接入れるだけの作業です。また取り組みの周知徹底には広報はもとより、新聞やテレビ等に取り上げられたことにより、急速に取り組み世帯が増加することとなりました。また広がった要因として、1 強制的ではないこと(通常の燃やせるごみに出しても大丈夫)、2 24時間いつでも利用できること、回収用のタルが常時設置してあるので、出したい時に出せる、また家庭内に生ごみを保管しなくても良いので、家庭での生ごみ臭が出ない、などがあげられます。また、回収した生ごみを「よかんど」という名称の堆肥に再生し、その堆肥を使用して栽培した作物(じゃがいもなど)で、学校などへの食育にも貢献しています。

その他生ごみリサイクルを続けて行くうえでの課題として、生ごみが大量にリサイクルされていることを良しとせず、食品ロスについても今後十分に検証しながら抑制する方法などを検討して行きたいとのことです。

エ 考察

各家庭で排出される生ごみを小出しに袋などに詰めず、ゴミステーションに用意されている回収用タルに直接入れることができることに、出しやすさという点で利点が大きいと思います。またコツコツマイレージというリサイクルによって、自治体へのキャッシュバックがあることなどが地域が一体となって積極的に参加できる要因ともなっていると思います。佐久市としては各家庭ごとの生ごみ処理の取り組みとなっていますが、日置市のような生ごみ処理後の再生事業なども取り入れてみるこ

も検討の余地があるかと思いますが。また生ごみを堆肥化することにより CO₂削減や業振興にもつながる取り組みにもなると思います。



生ごみを常設のタルにいつでも出すことができる。出された生ごみはたい肥へリサイクルされる。